

2019 年度 文学部・人間科学部

「授業に関する学生アンケート調査」

報告書

目次

1. はじめに 調査の概要と結果のポイント
2. アンケート質問項目
3. 回答概要 学科学年別傾向と各質問項目への回答状況
4. 学生の勉学状況
 - (1) 成績分布
 - (2) 学習時間
 - (3) 読書習慣: 傾向頻度
 - (4) 読書習慣: 学年別学科別傾向
5. おわりに

2020 年 7 月

文学部・人間科学部 FI委員会

1 はじめに 調査の概要と結果のポイント

文学部及び人間科学部の「授業に関するアンケート調査」は、2000 年度から毎年実施している。調査が対象としているのは文学部および人間科学部の専任教員（特任教授、助教を含む）であり、各教員には前期・後期の授業からそれぞれ 1 科目以上でのアンケート実施を依頼した。アンケート実施期間は、前期は 7 月 9 日(火)から 7 月 29 日(月)まで、後期は 12 月 3 日(火)から 12 月 23 日(月)までのそれぞれ 3 週間とし、専修大学ポータルサイトのアンケート機能を利用した。

アンケート実施科目は当該教員が担当する専門科目のうち履修者が最も多い講義科目を抽出して原案とし、教員の申し出によって変更及び追加を行った。そのため若干の実習科目も含まれている。必修、選択の別では、選択科目が全体の約 95%を占める。

対象教員数は 113 名、実施科目数は前期 115 科目、後期 114 科目、合計 229 科目であった。アンケート対象学生の延数は前期 9325 人、後期 8547 人であり、実際に得られた回答数はそれぞれ 3397、2234 であった。回答率は前期、後期それぞれ 36.4%、26.1%であった(【表 1】)。概して回答率が低いことがこの調査の課題とするべきところであるが、回答率が 10%に満たない授業も 3 割近くあった(【表 2】)。

アンケート調査の結果からは、授業の「明晰さ」、「体系性」、「知的魅力」、「有益度」、「教員の熱意」など、授業のアカデミックな質に関しては概して高い評価が得られている一方で、「理解度への配慮」や「自発的学習の促進」など、学生に勉学を促すような授業内の仕掛けについてはやや低い評価となっていることがわかる。学生が自発的に学習する習慣を身につけていない状況が推測されるが、それは回答された学生の授業外学習時間が極めて少なくなっていることからわかる。授業外学習を行うための必須作業である読書についても、習慣がほとんどない学生も一定数見られている。

現状においては授業そのものに対する満足度は高く、学生の知的関心に答える授業が提供されていると判断して良い。ただし、授業内で学生が満足して終わっている懸念もある。学生の授業外学習が定着していないのはそれを求める「文化」が学内に十分醸成されていないという背景要因があるとしても、個別の授業の中で授業の予習・復習が必須であると履修者に感じさせる授業運営の工夫や仕掛けが一層なされてもよい。

【表 1】 アンケート実施の状況

	前期	後期	前期後期の合計
対象教員数	113	113	
実施教員数	111	110	
実施率	98.2%	97.3%	
実施科目数	115	114	229
アンケート対象学生述べ数	9325	8547	17872
アンケート回答数	3397	2234	5631
回答率	36.4%	26.1%	31.5%

【表 2】 回答率の分布(科目単位)

回答率	科目数	比率	累積比率
-10%	81	27.6 %	27.9%
-20%	70	27.2%	54.8%
-30%	36	12.2%	67.0%
-40%	18	6.1%	73.1%
-50%	19	6.5%	79.6%
-60%	18	6.1%	85.7%
-70%	13	4.4%	90.1%
-80%	11	3.7%	93.9%
-90%	14	4.8%	98.6%
-100%	4	1.4%	100.0%
合計	294	100.0%	

2 アンケート質問項目

質問項目は例年通りの 12 項目とした(【表 3】)。Q1 から Q8 については「あてはまる」から「あてはまらない」までの 5 段階で回答、Q9 については〈4 時間以上〉〈1 時間以上 4 時間未満〉〈30 分以上 1 時間未満〉〈30 分未満〉〈全くしていない〉から 1 つを選択してもらった。Q10 については〈①新聞、②学術書・学術論文、③授業の参考書、④文芸作品、⑤マンガ、⑥その他、⑦全く読んでいない〉の 7 項目を選択肢とし、複数回答を可とした。Q11 と Q12 は自由記述とした。

【表 3】 「授業評価に関する学生アンケート」 質問項目

No.	項目	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
Q1	授業にはほとんど出席し、積極的に参加した。						〈出席状況〉
Q2	この授業はわかりやすかった。						〈明解さ〉
Q3	授業内容は体系的であり、よくまとまっていた。						〈体系性〉
Q4	この授業は知的魅力（面白さ）のあるものであった。						〈知的魅力〉
Q5	この授業は自分の学習にとって有益だった。						〈有益度〉
Q6	学生の理解度や反応に配慮した授業の進め方がなされていた。						〈理解度への配慮〉
Q7	自発的に学習・探求するための指針や助言をこの授業から得ることができた。						〈自発的学習の促進〉
Q8	授業に対する教員の熱意を感じた。						〈教員の熱意〉
No.	項目	4時間以上	1時間以上4時間未満	30分以上1時間未満	30分未満	全くしていない	
Q9	この授業のために授業外に学修した時間（一週間平均）。						〈一週間の学習時間〉
No.	項目	選択肢					
Q10	最近3ヶ月で読んだもののすべてにチェックを入れてください（複数回答可）。	①新聞、②学術書・学術論文、③授業の参考書、④文芸作品、⑤マンガ、⑥その他、⑦全く読んでいない					〈読書習慣〉

Q11 この授業を受けて有益だった点があれば書いてください。 自由記述

Q12 授業をより良くするために工夫できることがあれば書いてください。 自由記述

【表 4】 学科・学年別回答状況

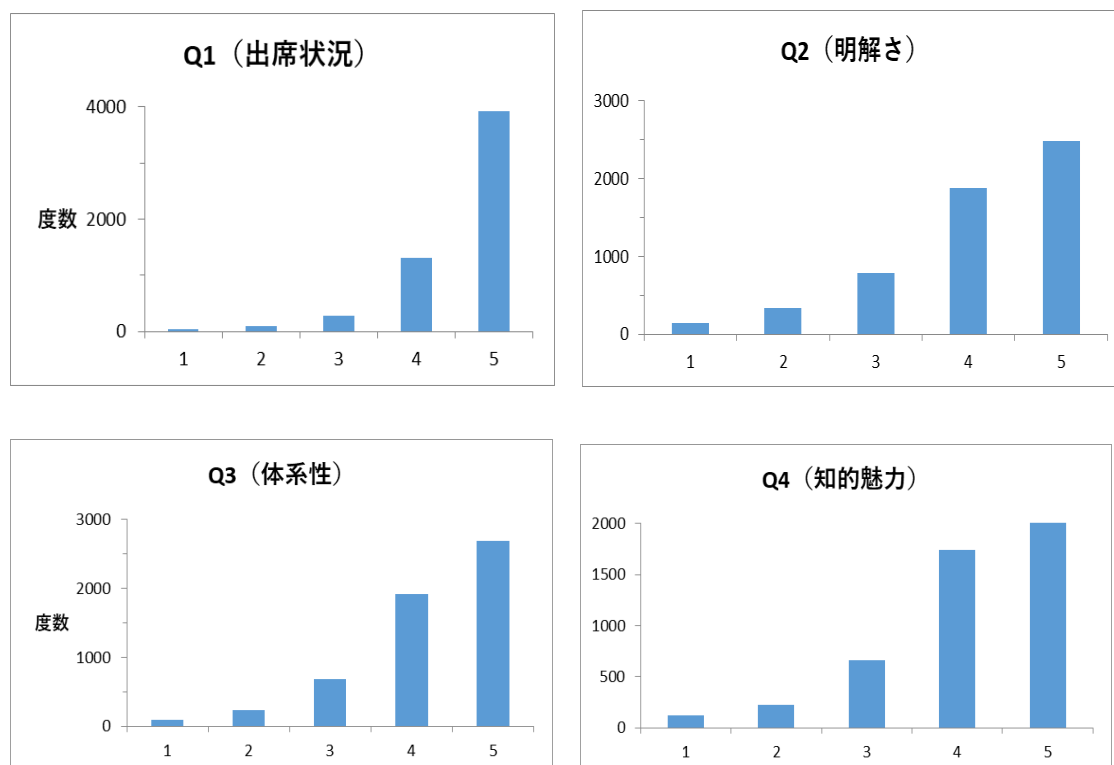
学科	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次以上	合計
日本語学科	71	263	87	26	447
日本文学文化学科	158	372	114	19	663
英語英米文学科	121	560	375	69	1125
哲学科	164	143	60	28	395
歴史学科	406	309	188	34	937
環境地理学科	47	192	68	8	315
人文・ジャーナリズム学科	0	220	61	11	292
ジャーナリズム学科	273	0	0	0	273
心理学科	151	236	72	14	473
社会学科	49	357	229	36	671
マーケティング学科	0	3	6	1	10
経済学科	3	5	13	1	22
国際経済学科	0	0	4	0	4
経営学科	0	3	0	0	3
ネットワーク情報学科	0	1	0	0	1
	1443	2664	1277	247	5631

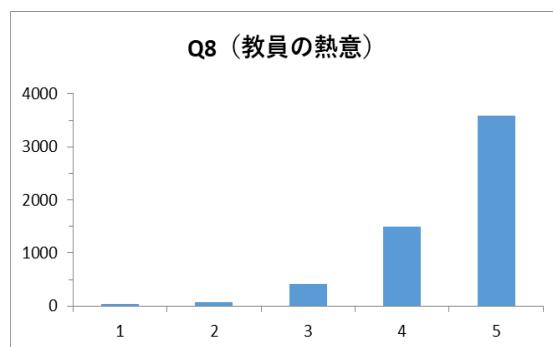
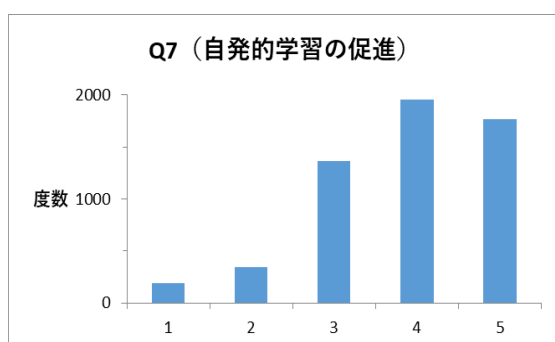
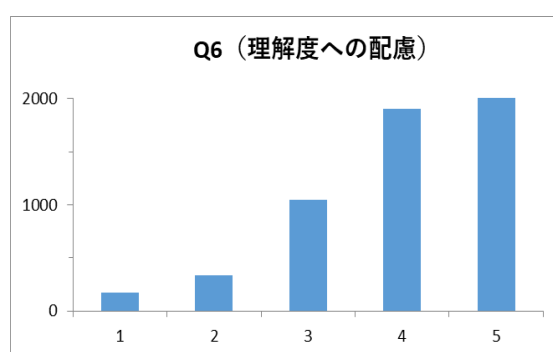
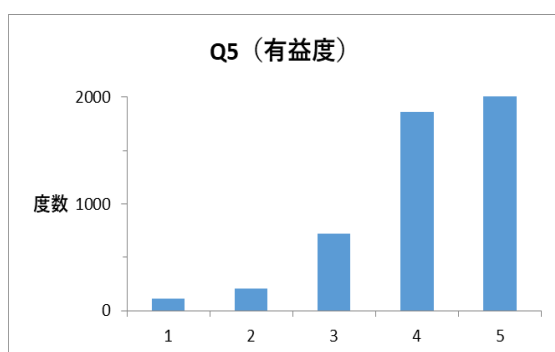
3 回答概要 学科学年別傾向と各質問項目への回答状況

学科、学年別の回答状況は上記【表 4】の通りである。文学部と人間科学部以外の学生の回答が少数存在しているのは、全学展開科目などが含まれているからである。4 年生の回答が少なく 2 年生を中心に回答数が多くなっているというのは、どの学科にも共通する特徴である。

各質問項目への回答状況は【図 1】の通りである。回答の内容を数値化して平均値を見たのが【表 5】である。授業の「明晰さ」、「体系性」、「知的魅力」、「有益度」、「教員の熱意」など、授業のアカデミックな質に関しては概して高い評価が得られている。一方で「理解度への配慮」や「自発的学習の促進」など、学生に勉学を促すような仕掛けについてはやや低い評価となっている。回答した学生自身の出席状況は回答値から見る限りは高いので、学生は授業には出席するがその次の段階には進み難いという状況にあるということのようである。

【図 1】 各質問項目への回答 Q1～Q8





1「あてはまらない」、2「どちらかといえばあてはまらない」、3「どちらともいえない」、4「どちらかといえばあてはまる」、5「あてはまる」

【表 5】 各質問項目の回答値の平均値・標準偏差

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9
平均値	4.60	4.10	4.22	4.25	4.22	3.98	3.85	4.52	2.37
標準偏差	0.72	1.02	0.94	0.96	0.94	1.04	1.04	0.75	1.14
回答者数	5631	5631	5631	5631	5631	5631	5631	5631	5631

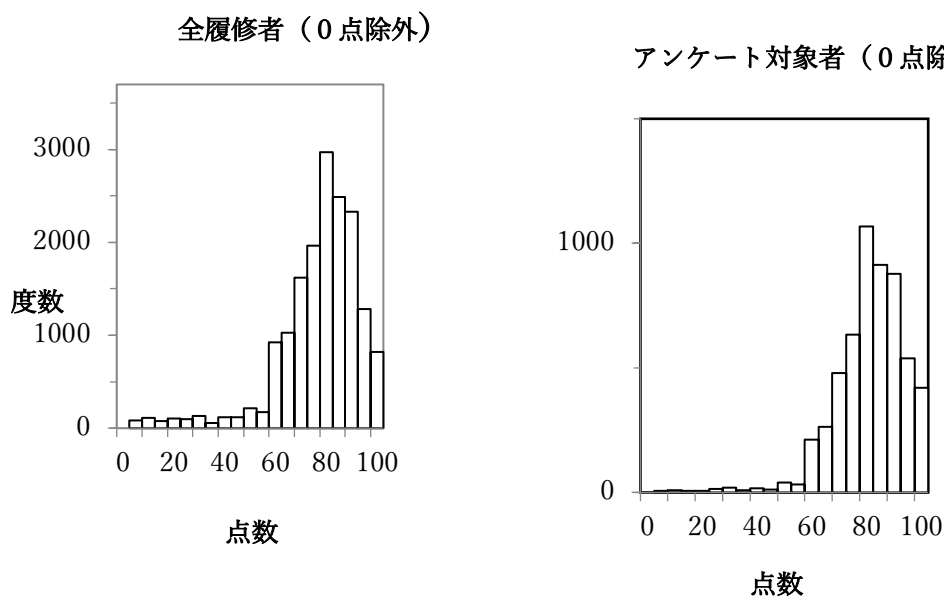
4 学生の勉学状況

(1) 成績分布

回答した学生が授業に積極的に関わっている学生であることはありうるとしても、回答した学生群が必ずしも高成績を収める学生に偏しているわけではないことは【図 2】で知ることができる。【図 2】は当該科目の全履修者と回答学生の成績分布を示したものだ。全履修者の「0」点にはレポート提出そのものを

しない履修を断念した学生が多く含まれているため、0点除外で比較した。全履修者と回答学生の成績分布は類似している。

【図2】 履修者及びアンケート回答者の成績分布

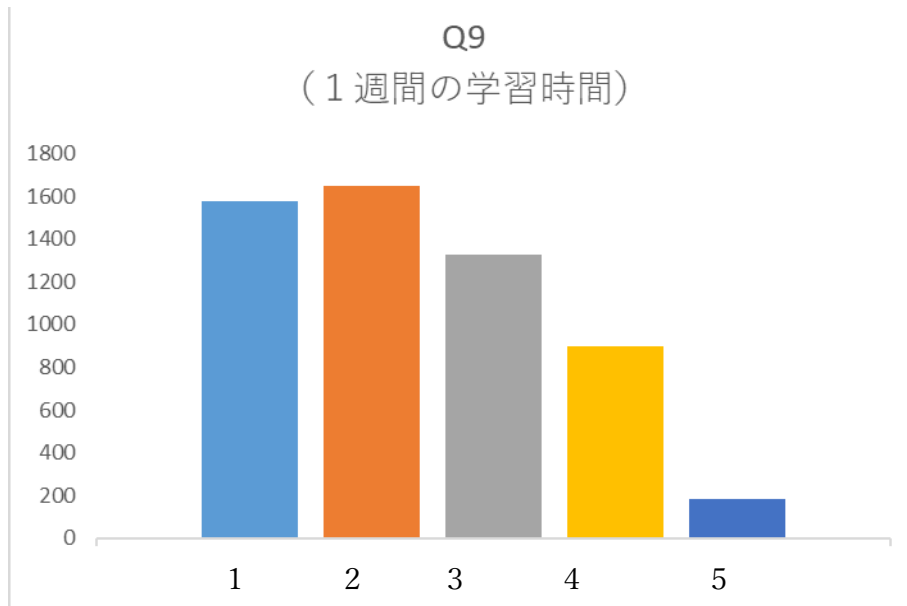


(2) 学習時間

授業には出席しているものの自分自身の学修がその先に進まない学生の状況は、学生の1週間の学習時間にも顕著に見て取れる。【図3】は1週間の授業外学習の時間をまとめたものだ。当該科目の授業に参加する以外の学習時間が1週間に「30分未満」の学生が最も多くなっている。1週間の授業外学習が1時間に満たない回答者を合計すると8割以上を占めており、授業外学習を「全くしていない」、すなわち学習時間が0である学生も3割に上っていることは看過できない。

大学の単位制度は1単位当たり45時間の学習を想定する(大学設置基準第2条)ものであり、したがって1科目につき毎週3時間の授業外学習の確保が想定されている。現状との乖離は大きいといわなければならない。

【図 3】 1 週間の学習時間



1 = 全くしていない、2 = 30 分未満、3 = 30 分以上 1 時間未満、4 = 1 時間以上 4 時間未満、5 = 4 時間以上

(3) 読書習慣: 傾向頻度

授業外学習の実質的な作業は主として読書である。授業外学習の習慣を身につけるにはまずは読書習慣を身につけることが肝要となる。

「アンケート調査」では学生の読書習慣について尋ねている。授業の参考書も含めて最近 3 ヶ月に読んだものについて複数回答可で尋ねた結果が【表 7】である。選択肢は「授業の参考書」、「マンガ」、「学術書・学術論文」、「文芸作品」、「新聞」、「その他」、「全く読んでいない」の 7 つである。選択肢中の「授業の参考書」は必ずしも当該授業のものに限定されてはいない。

約半数の学生が何らかの「授業の参考書」を、また同じく約半数の学生が何らかの「学術書・学術論文」を読んでいるが、逆に言えば、約半数の学生は学術書や参考書は手にとっていないということでもある。なお、約 7% の学生は、比較的多くの回答者が手にとっている「マンガ」や「新聞」も含めて全く読書習慣がないとしている。

【表 7】 読書習慣の各選択肢の選択率

種類	比率
授業の参考書	53.2%
マンガ	53.0%
学術書・学術論文	49.1%
文芸作品	44.2%
新聞	38.7%
その他	13.4%
全く読んでいない	6.9%

(延べ学生数、N = 5,631)

(4) 読書習慣： 学年別学科別傾向

読書習慣の傾向には学年別学科別の特徴が見られる。学年別の傾向をまとめたのが【表 8】である。「新聞」と「学術書・学術論文」は学年が上がるにつれて増加し、逆に「全く読んでいない」学生は減っている。1 年生に最も読まれているのは「マンガ」である。

学科別傾向をまとめたのが【表 9】である。「新聞」がよく読まれているのが LZ、LM、及び HS で、「学術書・学術論文」が多いのは LR と HP である。文芸作品とマンガは LB で多い。「学術書・学術論文」や「文芸作品」が読まれる頻度には学科間に大きな差が見られるが、「マンガ」はどの学科でもコンスタントに読まれている。

【表 8】 学年別の読書習慣

種類	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次以上
新聞	36.4%	37.0%	43.6%	47.5%	31.9%
学術書・学術論文	42.6%	49.1%	53.1%	68.5%	63.8%
授業の参考書	51.4%	54.7%	52.5%	55.5%	38.3%
文芸作品	44.1%	45.4%	41.9%	39.5%	63.8%
マンガ	52.5%	54.2%	51.9%	46.0%	63.8%
その他	16.6%	11.6%	13.5%	11.5%	19.1%
全く読んでいない	8.3%	6.9%	5.8%	3.5%	6.4%

【表 9 学科別の読書習慣】

種類	LG	LB	LA	LT	LR	LK	LZ	LM	HP	HS
新聞	41.4%	27.8%	30.6%	29.9%	38.5%	48.9%	62.7%	54.2%	28.3%	51.0%
学術書.学										
術論文	44.5%	37.6%	25.9%	48.4%	72.3%	65.1%	47.3%	31.5%	77.2%	52.3%
授業の参										
考書	57.0%	62.0%	49.3%	53.4%	48.5%	35.9%	61.0%	64.1%	55.6%	54.1%
文芸作品	43.4%	77.2%	43.0%	53.4%	38.8%	27.0%	53.8%	36.6%	34.7%	31.0%
マンガ	57.5%	71.3%	40.3%	55.4%	54.3%	38.4%	53.8%	57.1%	56.7%	52.9%
その他	9.8%	14.8%	11.6%	22.5%	13.8%	14.9%	13.4%	11.7%	12.7%	11.2%
全く読ん										
でいない	8.7%	2.7%	8.7%	8.1%	5.1%	9.8%	3.4%	8.1%	7.6%	7.5%
回答者数	447	663	1125	395	937	315	292	273	473	671

日本語学科 (LG)、日本文学文化学科 (LB)、英語英米文学科 (LA)、哲学科 (LT)、歴史学科 (LR)、環境地理学科 (LK)、人文・ジャーナリズム学科 (LZ)、ジャーナリズム学科 (LM)、心理学科 (HP)、社会学科 (HS)

5 おわりに

現状においては授業そのものに対する学生の満足度は高く、学生の知的関心に応える授業が提供されていると判断してよい。その一方で、学生自ら行う授業外学習が極めて貧弱であることが浮き彫りになっている。学生の授業外学習を促進する「文化」が学内に脆弱であることも背景にはあるが、短期的な対応策としては個別の授業の中で授業の予習・復習が必須であると履修者に感じさせる授業運営の工夫や仕掛けが更になされてもよいだろう。